

「自然を守る」その強い想いを胸に突き進み
数々の功績を残し、掴んだ内閣総理大臣賞。
揺るがない信念が産んだ輝かしい「功績」に迫ります。

継続は「力」なり



自然を愛し 未来を育む

Fukuchi's power & color
フクチカラ人
熊谷 信孝さん

福智町上野在住、87歳。岡山大学理学部
生物学科卒業後、県立田川高等学校の理
科教諭として働く傍ら植物研究者として植
物地理分類学会会員、福岡県環境教育ア
ドバイザーなどを歴任。平成28年には自
然環境保全活動で環境大臣表彰を受賞。

自然への愛が作った
輝かしい受章と功績の数々
4月26日に行われた第18回「みど
りの式典」で熊谷信孝さんが緑化推
進運動功労者として内閣総理大臣賞
を受賞しました。丹念な動植物の調
査と保護活動により、地域の里山保
全に寄与するとともに、調査結果の
公表や教育指導を通じて広く緑化意
識を広めた功績が讃えられました。

熊谷さんは、福智山にある虎尾桜
が県内での自生が希な「エドヒガン」
であることを明らかにしました。枯
死寸前であった虎尾桜を同志たちと
ともに保護活動を行い、回復した桜
は、平成12年に福智町の天然記念物
に指定されました。また、平成3年
の台風により被害を受けた英彦山の
ブナ林再生のために、近隣の母樹か
ら種子を採取・育苗し、多くのボラ
ンティアに技術的指導を行いながら
現在も植栽を継続。香春岳では、絶
滅危惧種のオキナグサの再生保護活
動に取り組みとともに、動植物の調
査結果をまとめた多数の書籍の出版
や、住民を対象とした観察会の講師
を務めるなど普及啓発にも尽力して
いました。これらの活動が高く評価
され、今回の表彰に至りました。

保護活動を通じて伝える 自然の魅力と大切さ

①「虎尾桜を心配する世話人会」の初期メンバー（一番⑥）熊谷信孝さん。
② 1989年（平成元年）に発見された当時は現在より枝が広がっていたとい
う虎尾桜。③ 英彦山の山頂部でボランティアの方々とブナの植樹を実施、
これまで約800本を植樹。④ 平成13年3月18日に初めて植樹したブナ
と写真を撮る熊谷さん。（樹齢21年 胸高周囲23cm 樹高5.2m 南岳山頂）



虎尾桜がエドヒガンと明らかに
なったきっかけは、1989年（平
成元年）に当時、高校教諭だった熊
谷さんの元に現在の虎尾桜を心配
する世話人会会長の小林省吾さん
らが花をもってきたのがきっかけで
した。「これが貴重なエドヒガンだ
と分かったときは、すぐに保護活動
を始めようと思った」と当時を振り
返る熊谷さん。その翌年（平成2年）
に「虎尾桜を心配する世話人会」が
発足しました。虎尾桜の発見当初
は、成長した杉の木に埋もれ日当た
りが悪く、根元にはコケやシダ植物
などが生え腐朽が進んでいました。

宮の奉幣殿にあった県指定天然記念
物の「泉蔵坊杉」が倒れ、中津宮か
ら行者堂までの表参道の北側の長さ
1kmにわたって江戸時代に植えられ
たと言われる約800本の「千本杉」
が全滅しました。その状況を目の当
たりにした熊谷さんと当時「田川山
の会」会長の永井直さんは1998
年（平成10年）にブナ林の再生活動を
開始。現在に至るまで、再生活動を行
っており、それ以外にも様々な活
動を行っています。「自然の魅力と大
切さを活動を通じて伝えていきたい」
と熊谷さんは熱い想いを語りました。

かけがえのない「今」を守り 次世代につなげる未来。

「今の自然とこれらの活動を次世
代に受け継ぐことが大事」と熊谷さ
んは訴えます。私たちの「今」があ
るのは、豊かな社会のおかげではな
く、多様な種が関わりあいながら形
成する自然の恵みによって支えられ
ているからです。これから次世代に
明るい未来を残すためにも、今一度、
偉大な「自然」について見つめ直し、
一人ひとりが環境問題に向き合い行
動することが、今の私たちにできる
小さな一歩ではないでしょうか。



野帳

Close up! Agriculture

山を調査する際に、野帳を常に持ち歩いている熊谷さん。今までに29冊の野帳にさまざまな動植物の特徴
や場所、気づいたことや感じたことを記録している。



2

1

3

4